

工 事 番 号							
設計年度	令和3年度	橋梁補修工事（市道大和町和木箱川線箱川橋） 三原市 大和町和木					
施工月日	令和 年 月 日						
施工方法	請 負						
工事期間							
工 事 概 要				起 工 理 由			
施工内容 橋梁補修 N=1橋 断面修復工 V=0.74m3 表面含浸工 A=40.96m2							

仕 様 書

特記仕様書

第1章 総則

第1節 適用

- 1 本特記仕様書は、三原市大和町和木 橋梁補修工事(市道大和町和木箱川線箱川橋)に適用する。
- 2 本特記仕様書に記載のない事項については、次によるものとする。

・**土木工事共通仕様書（令和2年8月）広島版**

※ 土木工事共通仕様書は「広島県の調達情報」に掲載している。

<https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/>

・その他関連規格類

第2節 情報共有システム

- 1 本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）に基づき実施すること。
- 2 本工事で使用する情報共有システムは次とする。
広島県工事中情報共有システム
<https://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html>
- 3 監督員及び受注者が使用する情報共有サービスのサービス提供者（以下「サービス提供者」という。）との契約は、受注者が行い、利用料を支払うものとする。
- 4 なお、工事完成時については、提出する必要がある工事成果品を電子納品すること。また、試行期間中は工事検査を紙媒体で受検することから、受注者は、工事成果品1部を紙媒体により提出すること。
- 5 受注者は、監督員及びサービス提供者から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためアンケート等を求められた場合、協力しなければならない。

第2章 施工条件

第1節 工程

- 1 施工時期・時間の制限
施工内容 工事全般
時期 全工事期間
時間 調整による
施工方法・理由 工事箇所が生活道路であるため、調整を十分に行い理解を得たうえで施工を行うこと。

第2節 用地

- 1 現場の復旧
原形復旧とする。

第3節 工事用道路

- 1 一般道路
使用期間 工事施工期間
使用時間 8時～17時
工事中・後の処理 随時 清掃， 工事後 舗装欠損部補修（工事前・後の写真により監督員と協議すること。設計変更の対象とする。）

第4節 建設副産物

1 産業廃棄物の場外保管

当該工事により発生する産業廃棄物を事業場の外（建設工事現場以外の場所）において300m²以上の面積で保管する場合には、保管場所を所管する都道府県知事又は政令市長に事前の届出を行うこと。また、届出事項を変更する場合は事前に変更届を、保管をやめたときは30日以内に廃止届を提出すること。ただし、産業廃棄物処理業等の許可施設における保管は届出対象外とする。

第5節 その他

1 工事用機資材の仮置き

場所 受注者が責任をもって確保すること。

2 新技術・新工法・特許工法の指定

1) 表面保護工における表面含浸材料は、T&C防食（N E T I S 番号 KT-090012-A）を見込んでいる。

3 各補修工の事前調査

1) 受注者は、洗浄後に本図をもとに詳細計測、試験を行い、補修数量の協議を発注者で行った後、補修を行うこと。

第3章 設計金額

第1節 排出ガス対策型建設機械の使用促進

土木工事共通仕様書（令和2年8月）『1-1-31 環境対策』で使用を義務付けている排出ガス対策型建設機械においては、排出ガス対策型（第2次基準値）以上の建設機械の使用に努めること。

なお、使用する排出ガス対策型建設機械について、基準値による設計変更は行わない。

第4章 工事保険等

第1節 法定外の労災保険の付保

1 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付きなければならない。

2 受注者は、建設工事請負契約約款第54条に基づき、法定外の労災保険の契約締結したときは、その証券又はこれに代わるものを速やかに監督職員に提示しなければならない。

3 法定外の労災保険は、政府の労働災害補償保険とは別に上乘せ給付等を行うことを目的とするものであり、（公財）建設業福祉共済団、（一社）建設業労災互助会、全日本火災共済協同組合連合会、（一社）全国労働保険事務組合連合会又は保険会社との間で、労働者災害補償保険法に基づいて契約を締結しているものとする。

第5章 その他

本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督員の指示を受けること。

工事数量総括表

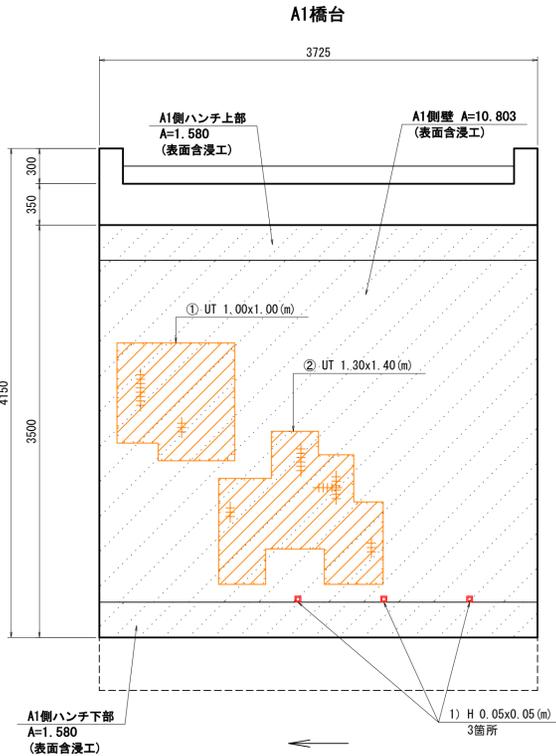
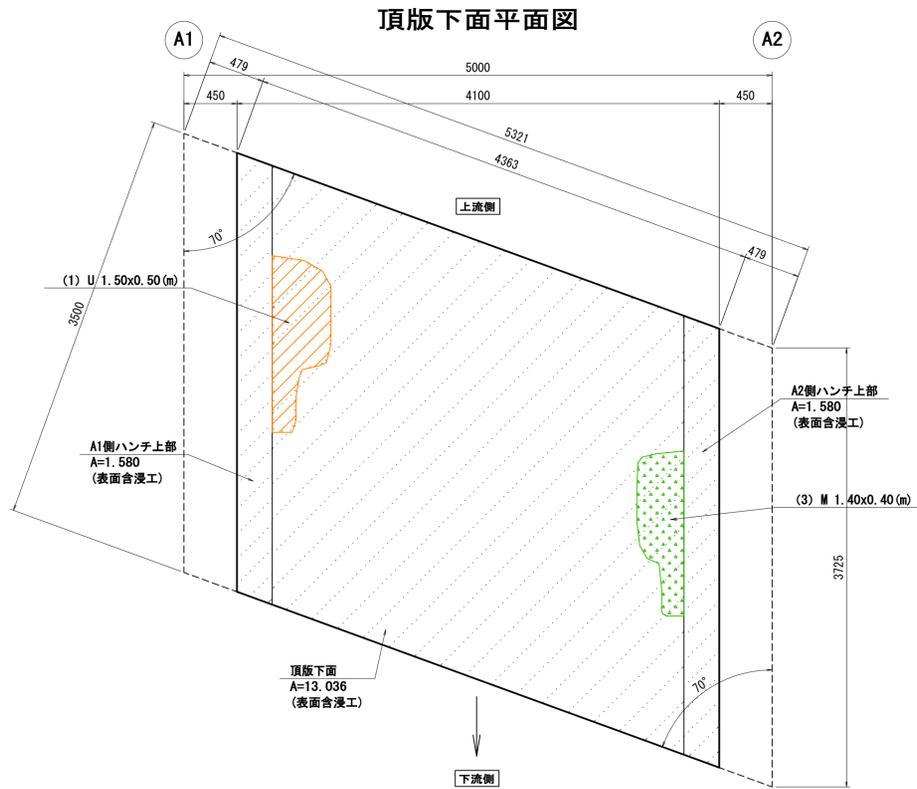
費目・工種明細など	規格1・規格2	単位	数量	備考
本工事費				
橋梁保全工事		式	1	レベル1
橋梁補修工		式	1	レベル2
断面修復工		式	1	レベル3
左官工法	ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む	構造物	1	レベル4
表面保護工		式	1	レベル3
表面含浸	ハイブリッド(固化)型	m2	41	レベル4
構造物撤去工		式	1	レベル2
運搬処理工		式	1	レベル3
殻運搬	Co	m3	1	レベル4
殻処分	Co(無筋)	m3	1	レベル4
直接工事費				
共通仮設費率分				
共通仮設費計				
純工事費				
現場管理費				
工事原価				
一般管理費率分				

工事数量総括表

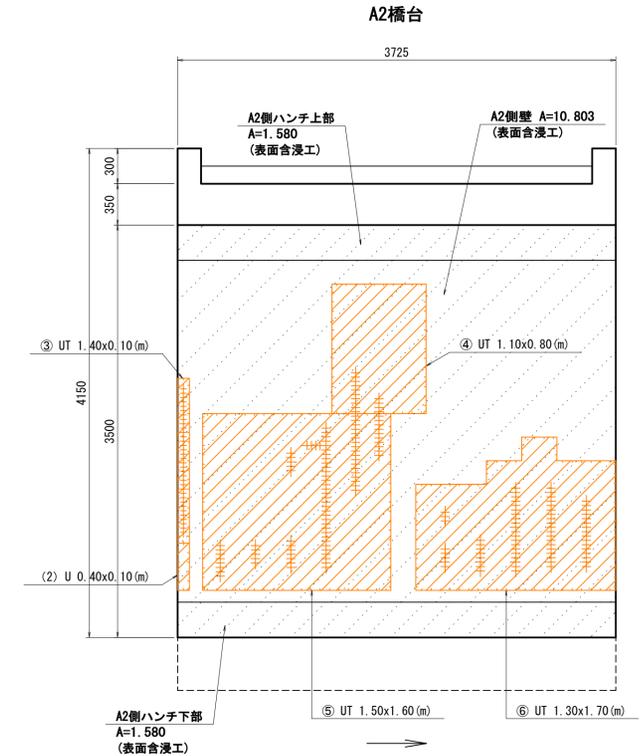
費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
契約保証費					
一般管理費計					
工事価格					
消費税相当額					
工事費計					
契約保証費計					

補修図 (箱川橋) S=1/30

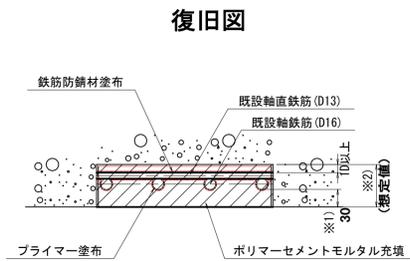
(断面修復工・表面保護工)



側壁正面図



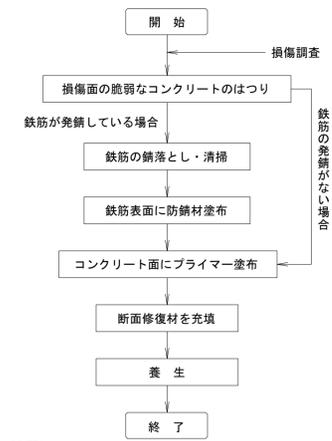
断面修復工詳細図 (左官工法)



※1) かぶり: 現地調査結果 参照
 ※2) 上部工: 75mm=30mm(かぶり)+45mm(軸鉄筋D16+軸直鉄筋D13+1D以上)

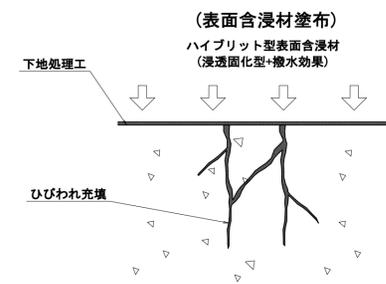
工種	仕様
断面修復工	ポリマーセメントモルタル材

施工フロー



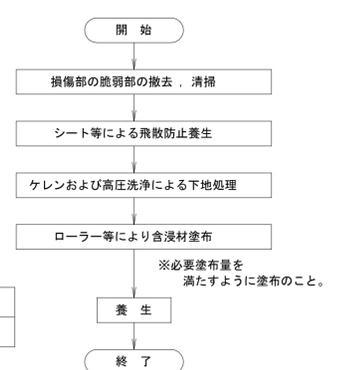
注記) 1. 鉄筋腐食が著しく断面欠損している場合には、補強鉄筋を設置すること。

表面保護工詳細図



工種	仕様
表面含浸工	ハイブリッド型表面含浸材(固化型)

施工フロー



※必要塗布量を満たすように塗布のこと。

凡例

U	コンクリートの浮き	: 断面修復工にて補修を示す。
UT	コンクリートの浮き・局部的剥離鉄筋	: 断面修復工にて補修を示す。
H	コンクリートの剥離	: 断面修復工にて補修を示す。
M	ジャンカ	: 断面修復工にて補修を示す。
	表面含浸工塗布部分を示す。	

補修工法

工種	細別	規格・材料
断面修復工	はつり工	左官作業
	断面修復工	ポリマーセメント系モルタル材
表面保護工	下地処理	高圧洗浄
	表面含浸工	ハイブリッド型表面含浸材

注記)

- 本図面は、調査結果をもとに作成した図面である。
- 施工時には、天候に十分注意をすること。
- 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- はつり後、鉄筋発錆がある場合は、ワイヤーブラシ等で錆を落とし防錆材塗布する。又、必要に応じて鉄筋を交換する。その後、鉄筋背面まで隙間なくコンクリートの充填を行うこと。
- はつり断面はフェザーエッジを形成しない様、注意すること。
- はく落防止として必要であればメッシュ等を配置し対応すること。
- 防錆材は塗りが残らないよう入念に行うこと。

- はつり面に凹凸がある場合は既設コンクリート面と修復材との間に空隙が残らない様に適切な処置を行うこと。
- コンクリートのはつり作業時において補修材及びはつり殻等の落下を防ぐよう防護すること。
- はつり後、ひび割れ損傷が深層部にて確認される場合は、ひびわれ注入工と併用し施工すること。
- 表面含浸材塗布前にはケレン処理、高圧洗浄などにより、塗布面を十分に清掃し、汚れやエフロレッセンスなどを除去すること。
- 表面含浸材塗布前には0o損傷部は事前に補修を施すこと。
- 必要塗布量を満たすように塗布すること。

工事名	橋梁補修工事 (市道大和町和本箱川線箱川橋)		
図面名	補修図 (箱川橋)		
作成年月日	令和 2年 3月		
縮尺	図示	図面番号	3 / 3
会社名	三原市		
事業者名	建設部 土木整備課 維持改良係		

参 考 資 料

— 橋梁補修工事（市道大和町和木箱川線箱川橋） —

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系	0 48 三原市(大和) 00-03.07.01(0) 1 公共(一般)	凡例 Co … コンクリート As … アスファルト DT … ダンプトラック BH … バックホウ CC … クローラクレーン TC … トラッククレーン RTC… ラフテレーンクレーン
	当世代 41 橋梁保全工事 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0% 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)	前世代
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。		

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
橋梁保全工事					Y1G03 レベル1
橋梁補修工	1	式			Y1G0324 レベル2
断面修復工	1	式			Y1G032405 レベル3
左官工法 ポリマーセメントモルタル 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む	1	式			Y1G03240501 レベル4
断面修復工（左官工法） （鉄筋ケレン・防錆処理を含む） 修復延べ体積0.74m3	1	構造物			V1020041 00 単第0 -0001 表
表面保護工	1	式			Y1G032406 レベル3
表面含浸 ハイブリッド（固化）型	41	m2			Y4999 レベル4
表面含浸 ハイブリッド（固化）型 下地処理を含む	41	m2			V3030053 00 単第0 -0003 表

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
構造物撤去工					Y1G0327 レベル2
	1	式			
運搬処理工					Y1G032716 レベル3
	1	式			
殻運搬 Co					Y1G03271601 レベル4
	1	m3			
人力積込 コンクリート塊					SPK20040008 00
	1	m3			単第0 -0004 表
殻運搬 Co(無筋・鉄筋)構造物とりこわし 人力積込 DID区間無し 運搬距離11.0km以下(8.5km超)					SPK20040146 00
	1	m3			単第0 -0005 表
殻処分 Co(無筋)					Y1G03271602 レベル4
	1	m3			
【直接工事費に含まれる処分費等】					#0041
殻受入れ費 Co(無筋)					F0041001001 00
	2	t			
** 直接工事費 ** #0020計=支給品等(材料),無償貸付					

本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
共通仮設費率分					Z0019
計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 共通仮設費計 **					
** 純工事費 **					
現場管理費 計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 工事原価 **					
一般管理費率分 計算情報..... 対象額..... 率.....					前払補正率...
契約保証費 計算情報..... 対象額..... 率.....					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					

施工単価表

表面含浸
ハイブリッド(固化)型

V3030053
下地処理を含む

単第0 -0003 表

300 m2 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
浸透材A ケイ酸塩系含浸材	49.5	kg			
浸透材B シリコーン系撥水材	33	kg			
土木一般世話役	5.9	人			
塗装工	11.9	人			
普通作業員	5.9	人			
機械器具損料	1	式			
雑材料	5	%			#01
*** 合計 ***	300	m2			
*** 単位当たり ***	1	m2			

施工単価表

殻運搬

SPK20040146

単第0 -0005 表

Co(無筋・鉄筋)構造物とりこわし 人力積込

DID区間無し 運搬距離11.0km以下(8.5km超)

1

m3 当り

機械構成比: 20.12% 労務構成比: 70.66%

材料構成比: 9.22%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

6,525.70000

代表機劣材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機劣材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	20.12%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
運転手(一般)	70.66%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	9.22%		軽油1.2号パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 C=1 E=1	Co(無筋・鉄筋)構造物とりこわし DID区間無し -(全ての費用)		B=2 D=50	人力積込 運搬距離11.0km以下(8.5km超)	

6.1 数量総括表

工種	種別	細別	規格	単位	合計	備考
上部工	断面修復工	はつり殻(人力運搬)		t	1.69	
		断面修復工	ポリマーセメントモルタル	m ³	0.74	
	表面保護工	下地処理	サンダーケレン	m ²	40.96	
		表面含浸工	ハイブリッド(固化型)型	m ²	40.96	

6.2 上部工

1. 断面修復工

1) はつり殻(人力運搬)

$$V = 0.735 + 0.0004$$

$$= 0.735 \text{ m}^3$$

$$W = 0.735 \times 2.3$$

$$= 1.691 \text{ t}$$

2) 断面修復工 (ポリマーセメントモルタル)

$$V = 0.735 + 0.0006$$

$$= 0.736 \text{ m}^3$$

2. 表面保護工

1) 下地処理 (サンダーケレン)

$$A = 13.036 + 10.803 \times 2 + 1.580 \times 4$$

$$= 40.96 \text{ m}^2$$

2) 表面含浸工 (ハイブリッド(固化型)型)

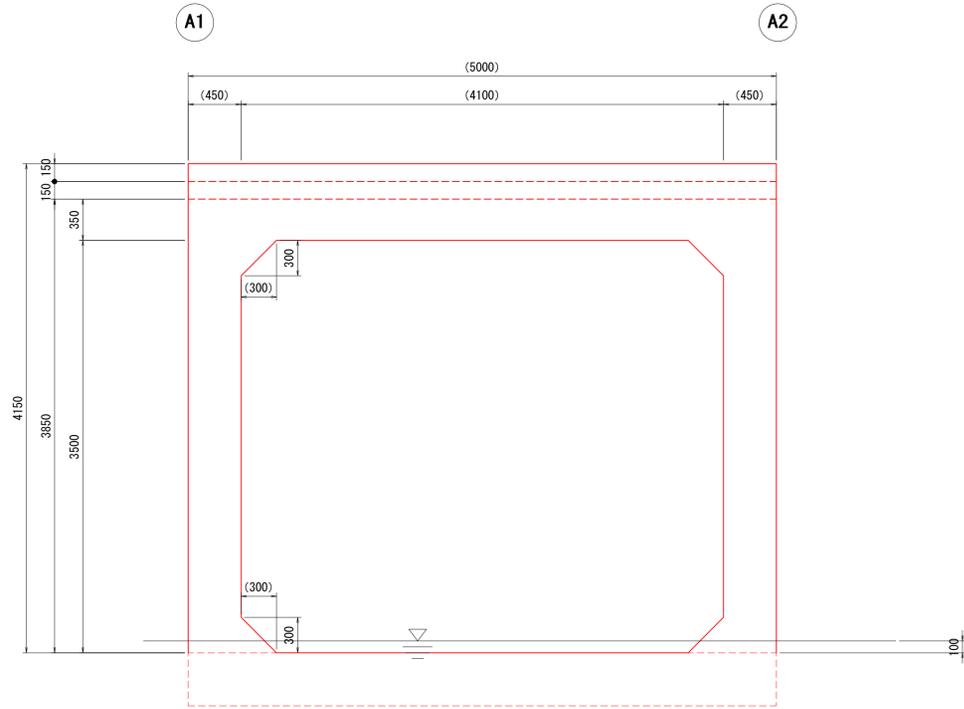
$$A = 40.96$$

$$= 40.96 \text{ m}^2$$

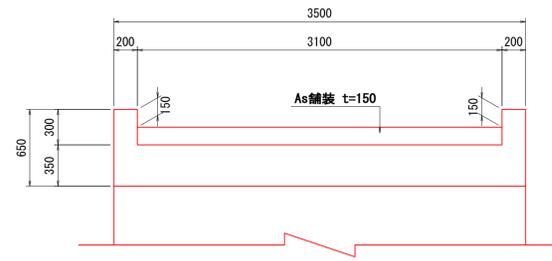


現橋一般図（箱川橋）

側面図 S=1/30



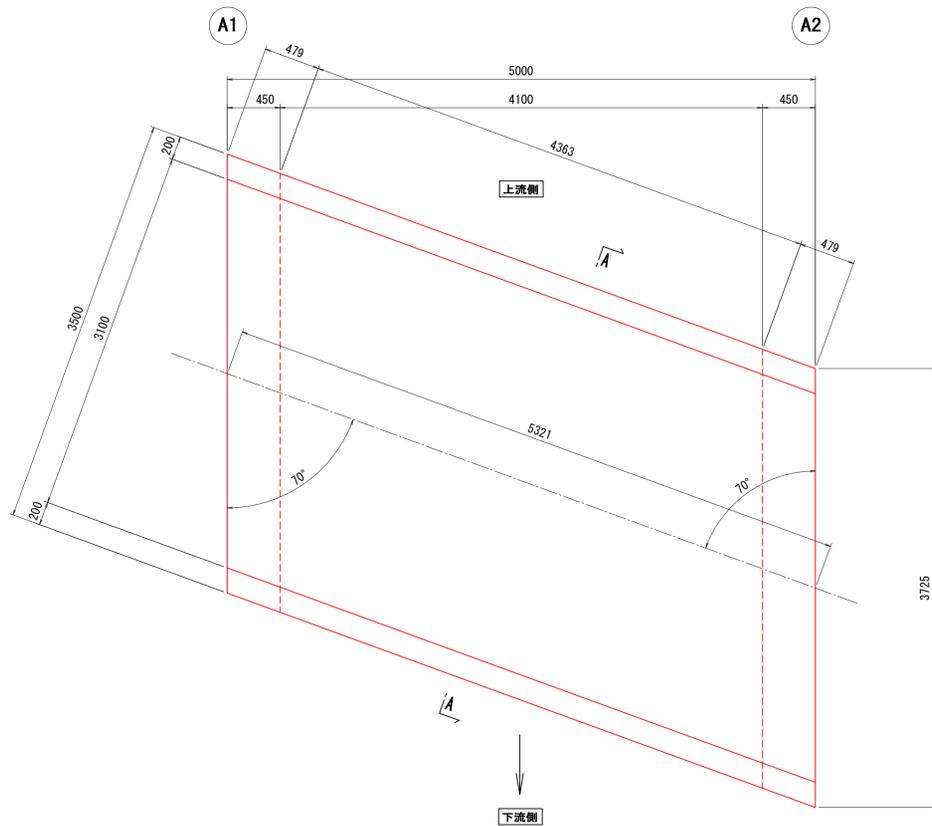
A-A断面図 S=1/30



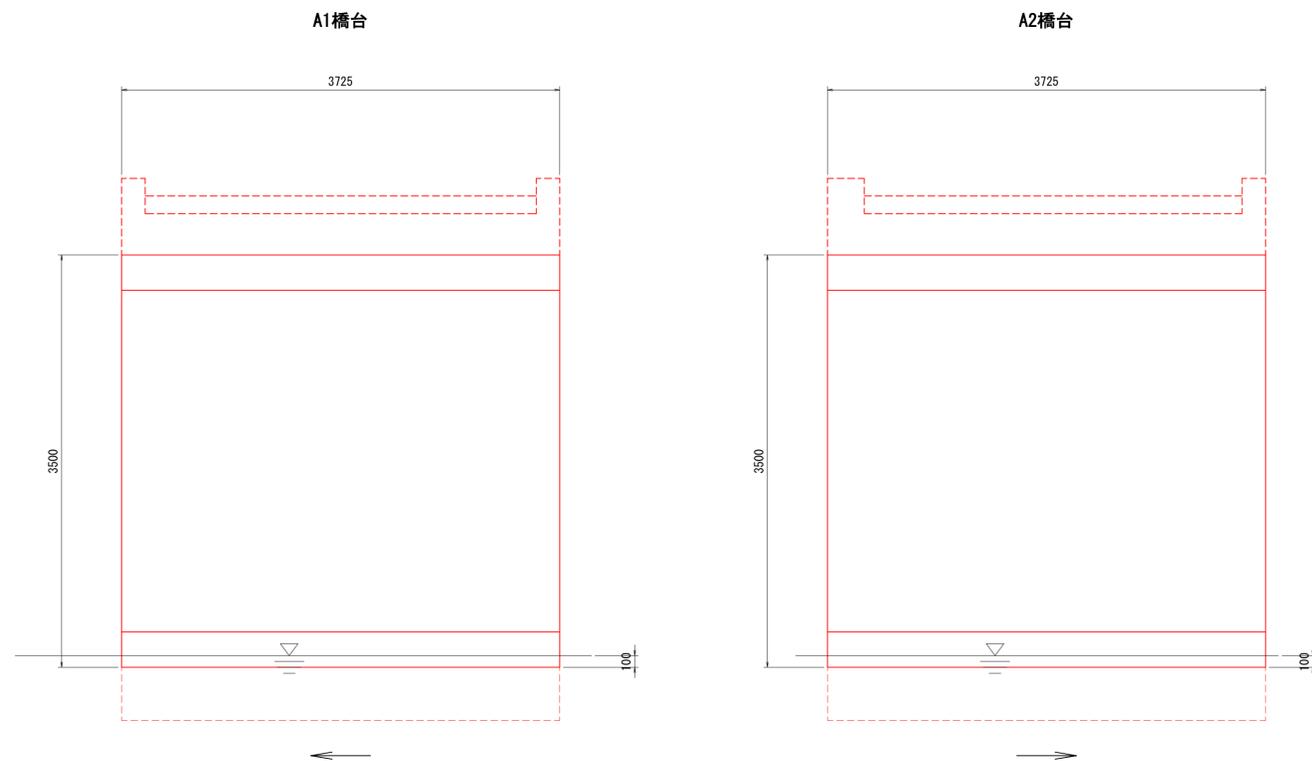
設計条件(推定)

設計条件(推定)	
橋格	車道橋
所在地	三原市大和町和木
形式	ボックスカルバート
構造形式	ボックスカルバート
径間数	1径間
橋長	5.000m
桁長	-
幅員	有効幅員 3.100m
斜角	右 70°
平面線形	R=∞
舗装	アスファルト舗装 150mm
設計荷重	A活荷重(推定)
添加物	-
設計基準強度	21 N/mm ² (推定)
鋼材材質	SD295
下部工基礎	-
適用指針	道路橋示方書(H6年) 道路土工 擁壁・カルバート・仮設構造物工指針(S62年)
架設年次	1995年

平面図 S=1/30



側壁正面図 S=1/30

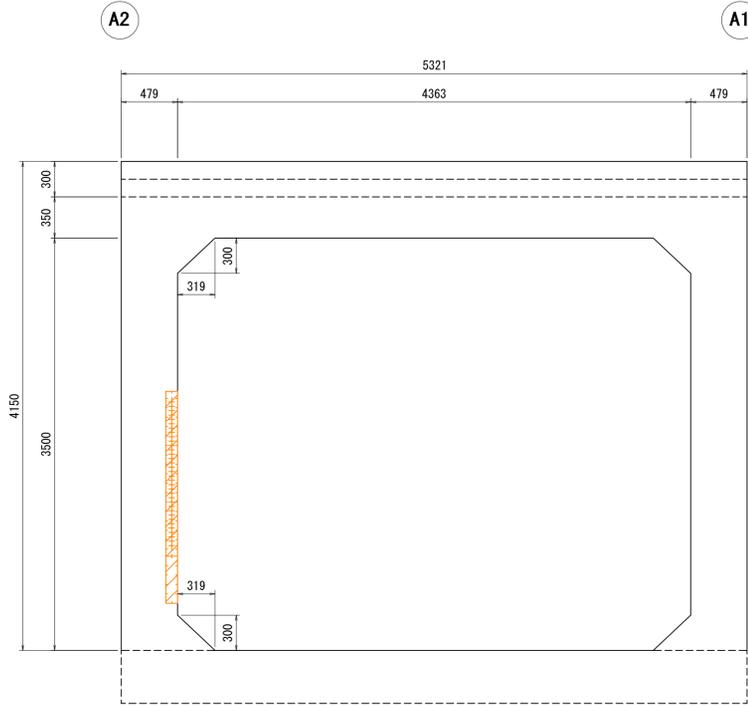


注記)

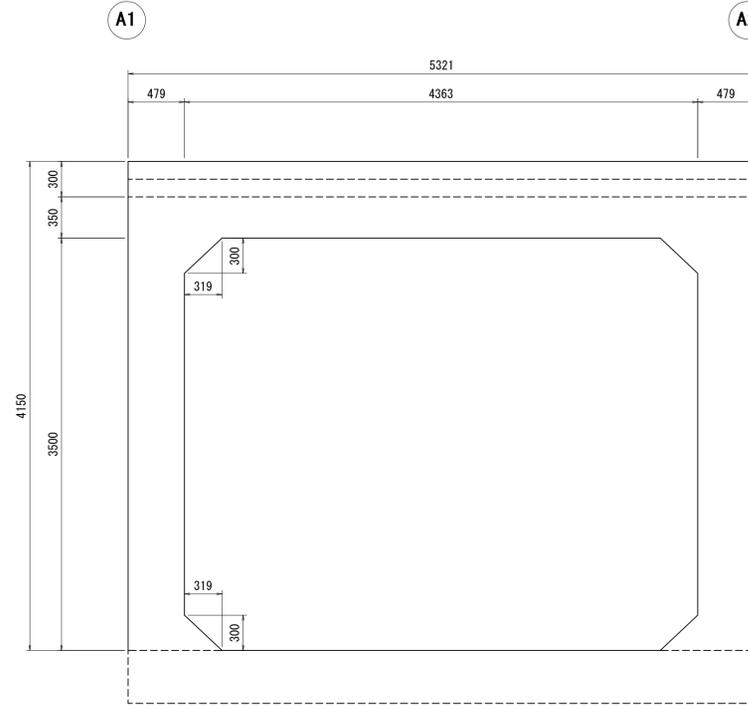
1. 本図面は、既存資料及び現地寸法調査にて作成した図面である。

工事名	橋梁補修工事(市道大和町和木箱川線箱川橋)		
図面名	現橋一般図(箱川橋)		
作成年月日	令和2年3月		
縮尺	図示	図面番号	1 / 3
会社名	三原市		
事業者名	建設部 土木整備課 維持改良係		

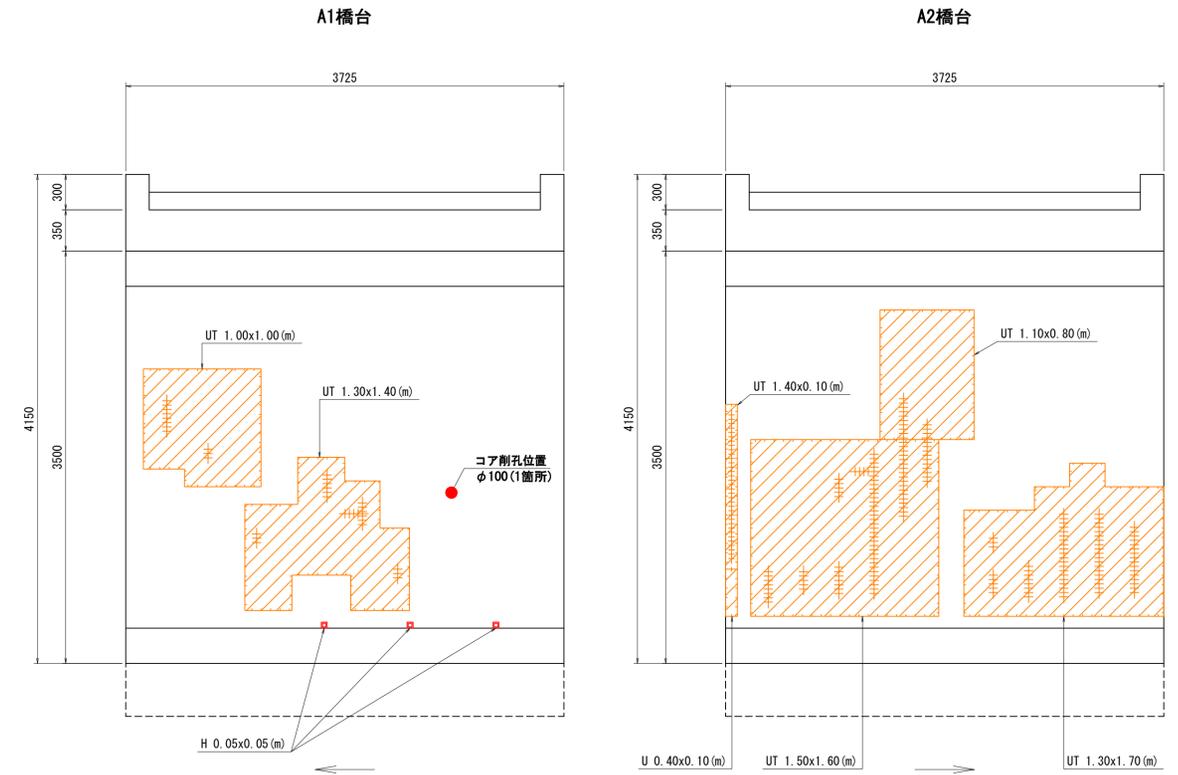
上流側側面図



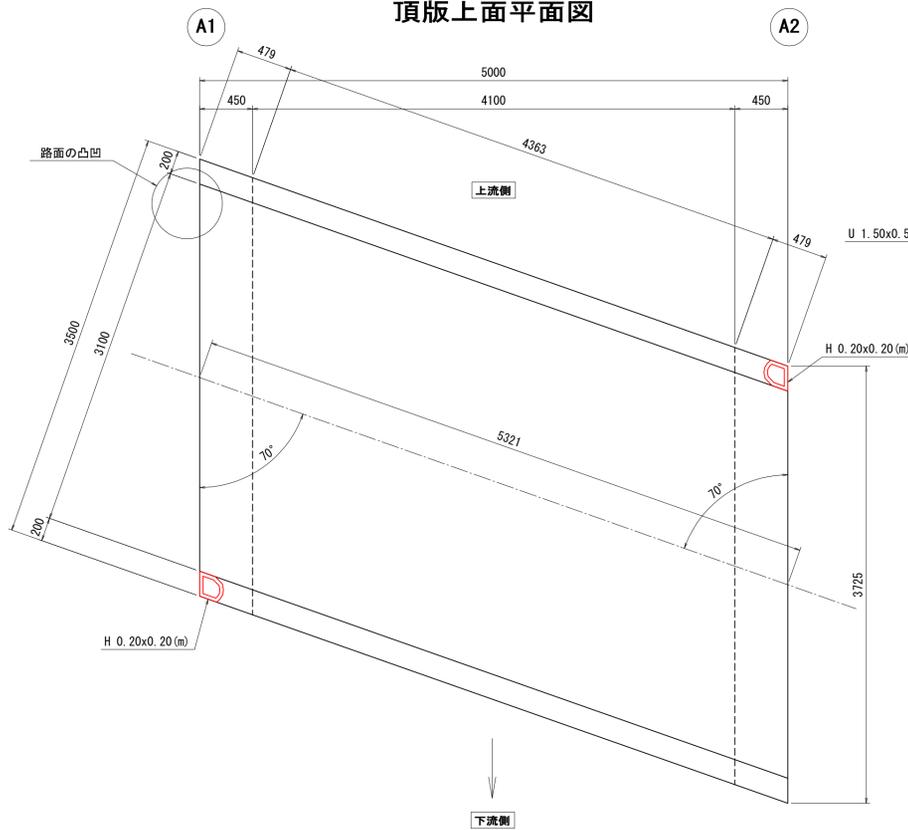
下流側側面図



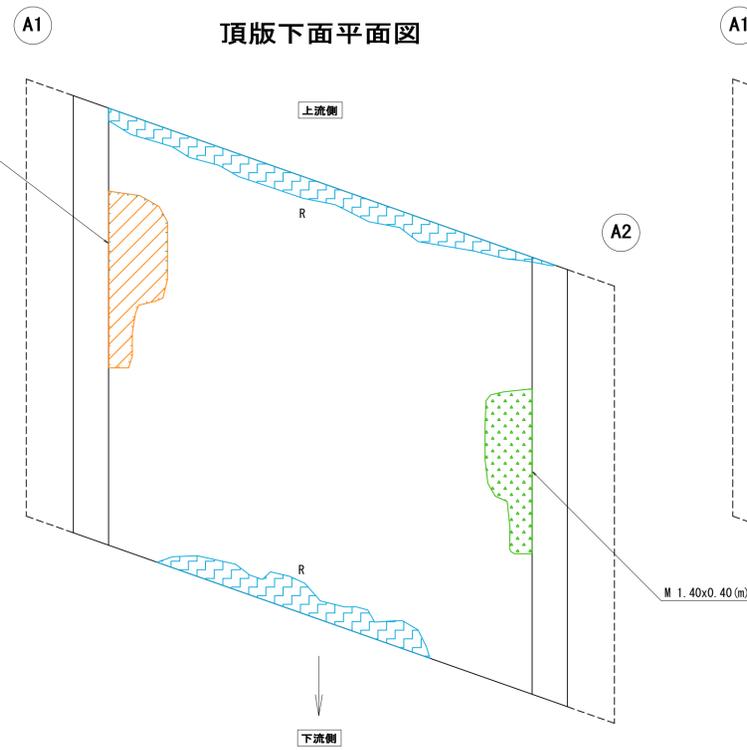
側壁正面図



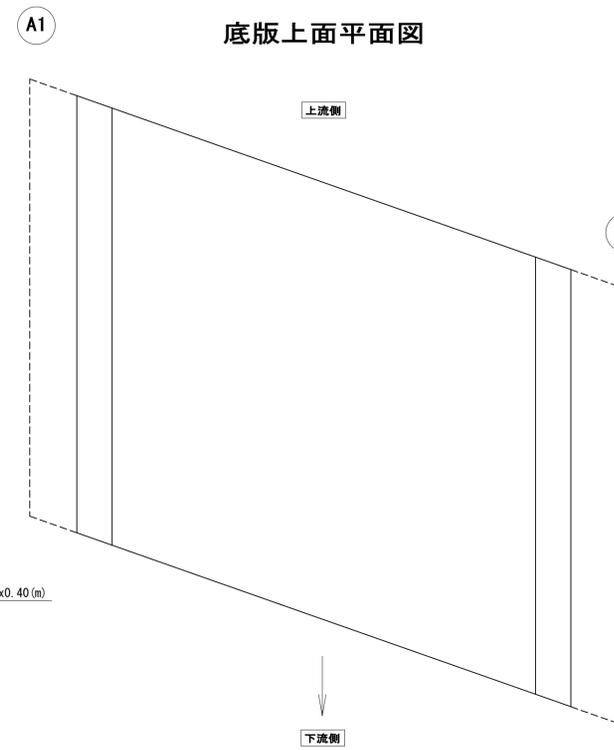
頂版上面平面図



頂版下面平面図



底版上面平面図



凡例

C	ひび割れ (0.2~1.0mm未満)
CS	錆汁を伴うひび割れ (0.2~1.0mm未満)
C	ひび割れ (1.0mm以上)
CS	錆汁を伴うひび割れ (1.0mm以上)
U	コンクリートの浮き
UT	コンクリートの浮き・局部的剥離鉄筋
H	コンクリートの剥離
HT	コンクリートの剥離・鉄筋露出
Y	遊離石灰又はエフロレッセンス
R	漏水
T	鉄筋露出
M	ジャンカ

※ひび割れ(0.2mm未満)に関しては対象外とし計上しない。

工事名	橋梁補修工事 (市道大和町和本箱川線箱川橋)		
図面名	損傷図 (箱川橋)		
作成年月日	令和 2年 3月		
縮尺	図示	図面番号	2 / 3
会社名	三原市		
事業者名	建設部 土木整備課 維持改良係		

注記)
1. 本図面は、既存資料及び現地寸法調査にて作成した図面である。